山形県教育委員会・県P連・高P連　合同教育懇親会（平成29年11月10日）ホテルキャッスル

「郷土愛の育成に向けたPTAの役割」

～人間力に満ちあふれ、山形の未来をひらく人づくりをめざして

平成２７年５月より「つなぐ」～いのち、学び、地域～をテーマとして「人間力に満ちあふれ、山形の未来をひらく人づくり」を基本目標とする第６次山形県教育振興計画がスタートし、生まれ育った郷土を愛し、地域で活躍し、未来をきりひらいていく人材の育成が求められている。

学校教育は、国家・社会の形成者として必要な資質を養うことを目標の一つとしており、地域コミュニティの一員として、地域に積極的に参画し続ける人の育成もそれに沿ったものである。またＰＴＡのめざす子どもたちの姿つまり次代を担う人材の育成ともリンクするものであり、今後のＰＴＡ活動の大きな柱の一つでもある。

「郷土愛」は、子どもたちが学校・家庭・地域における成長過程の中で育まれるものであり、積極的・意識的に地域の人・もの・自然・文化・歴史・産業等に関わる中で育まれるものである。

「自然と文明が調和した理想郷山形」を実現していく人材を育成するために学校・家庭・地域が緊密に連携して何ができるかを考えたい。

〈話題提供〉　県教育委員会　総務課企画調整専門員　　樋口　純一　氏

「郷土愛の育成に向けた山形県教育委員会の取り組み」

Ⅰ　今、なぜ「郷土愛の育成」か？

・少子高齢化を伴う人口減少　・グローバル化等の進展→自分自身の「根っこ」「心の拠りどころ」が必要。

・人口流出による地域コミュニティの変化

　→地域コミュニティの存立への危惧～自分たちの生まれ育った「ふるさと」がなくなってしまう！～

Ⅱ　郷土愛育成の位置付け　～「大綱」と「６教振」～

・地域とつながる人

　地域の一員　人々との関わり　地域に参画　→　地域の未来をきりひらく人

　郷土を愛し　どこにいても　郷土が心の支え　→　地域とつながり続ける人

・６教振の基本目標　「人間力に満ちあふれ、山形の未来をひらく人づくり」

　目指す人間像　広い視野と高い志を持って　「いのち」をつなぐ人　学び続ける人　地域とつながる人

Ⅲ　郷土愛に係る本県の児童生徒の意識

・児童生徒の自尊感情　　他人を思いやる意識　地域活動参加への意識　社会への関心　⇒　高い

Ⅳ　郷土愛を育成するための取組み

・郷土愛を育む教育の推進

　学校における「郷土・山形」を学ぶ授業　地域に根ざし、地域と連携した学習活動

　山形県民の歌「最上川」、スポーツ県歌「月山の雪」の普及

　活力あるコミュニティ形成→ジュニアリーダー活動 地域青少年ボランティア活動 社会教育施設の機能強化

　学校・家庭・地域の連携協働の推進→学校支援、学習・体験活動支援 地域行事への参画支援 家庭教育支援

　新たなコミュニティスクールの推進→地域とともにある学校つくり　学校を核とした地域づくり

視点１：子どもたちが地域コミュニティの一員として地域の人・もの・自然・文化・歴史・産業等に関わることができる有効な手段や場

【学校で・家庭で】

・紅花を栽培し紅花染めをする、蚕を飼い繭でコサージュを作る等、学校と地域で地域文化や産業を学び活動する。

・親子で植林をしながら防風林の役目を学ぶ。

視点２：郷土愛を持ち、人間力に満ちあふれ、山形の未来をきりひらく人材の育成に向けてPTAのできることを考える。ＰＴＡ活動と

・地域を巻き込み活動に取り組む体制作りをする。

・除雪ボランティアを行い地域の方とコミュニケーションを取る。

・地域の祭りへの参加、祭り後のゴミ拾いボランティアなどで地域愛を育む。

まとめ

親が地域の良さを知り、機会ある毎に子どもに伝えることが最も大切なことであり、この機会を作ることがPTAとして重要なことではないか。学校・地域と連携し、親子で参加・体験することで郷土愛に基づく心を育んで行きたい。

文責　県ＰＴＡ連合会理事　佐竹　直子